グループホームひなた日和
（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0990200222		
法人名	株式会社　ケアイノベーション		
事業所名	グループホーム　ひなた日和		
所在地	栃木県足利市本城1丁目1578-1		
自己評価作成日	平成30年1月8日	評価結果市町村受理日	平成30年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成30年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ひなた日和の掲げる理念の「生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定」ができるよう、また皆様の「笑顔」がみられるよう、日々ご入居者様とともに生活を送っています。ご入居様の様々な要望を叶えられることができるように、また、ひなた日和に入居してよかった。と思っていただけるようスタッフ一同研鑽を重ねあっています。地域の方々の温かなサポートもあり、季節ごとのイベントにも参加できています。地域の方々に気軽に立ち寄っていただけるようなかかわりが持てるように環境を作り上げています。ひなた日和が今まで以上にご入居者様、ご家族、地域に浸透できるよう、風通しの良いゆったりとした環境の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、小規模多機能型事業所が併設された、開所から4年目を迎える事業所である。現在の統括施設長が建物の設計段階から関わり、キッチンから玄関・リビングを見渡すことができ、利用者の安心・安全を確保できる作りになっている。リビングは天井が高く開放感があり、梁には木がたくさん使われ、木のぬくもりを感じられる雰囲気となっている。職員も利用者も明るく、和気あいあいとした雰囲気が自慢で、団らんの時間には、共に歌を歌ったり、パズルをしたり、談笑したりと日々の生活を楽しんでいる。食事前に体操や口腔体操を取り入れたり、居室の掃除や食後のお皿ふきをするなど、利用者の力を活かす工夫をしている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にし、職員の意見を運営に反映できるよう努め、職員は生き生きとやりがいを持って日々のケアにあたっている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所とホールの間の掲示板に理念、職員像を掲げ実践に繋げていけるよう努め、職員は理念を共有し日々の生活の中で信頼関係を築いていけるよう実践している。	事業所理念である「生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定」のため、管理者、職員が日々のコミュニケーションを大切にし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し夏には子ども神輿が来所し休憩場所の提供をしている。近隣施設の行事の際には回覧板を回して頂き参加し地域の方々との交流を図っている。	子供御輿で来所した子供達へお菓子の提供、神社のお祭り、近隣の特別養護老人ホームの夏祭りへの参加等、地域との交流を図っている。広報紙を回覧板で回して事業所の様子を伝えるなど、積極的に情報発信を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や地域の方から認知症の人の理解や接し方の相談を受けた場合、助言等をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し利用者の動向、活動状況、事業報告のほか他業種の方への参加への呼びかけを行い意見交換しサービス向上に繋げている。	自治会長・民生委員・利用者・家族・市担当者・地域包括支援センター職員等の参加で2ヵ月に1度開催し、議題により消防署員の参加を得るなど、サービス向上に努めている。地域包括支援センターからは市の情報、自治会長からは防犯について情報提供がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないこと、確認したいことがある際には連絡を取り協力関係が築けるように努めている。	市担当者と気軽に相談に行ける関係を築くよう努めている。地域包括支援センターからは様々な情報提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全の為、施錠してあるが天気の良い日など網戸にて見守り対応している。職員は身体拘束をしない介護を心掛け、その考えを共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。今年は接遇を含めた身体拘束に関する職場内研修を実施する予定である。同一法人の管理者等が集まる際には、身体拘束についての勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の日々の状況を把握しちょっとした変化を見逃さないようスタッフ同士声を掛け合い情報共有しまた、職員会議などで話し合いを行っている。職員それぞれもフラストレーションを溜めないよう注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、支援が出来るよう学びの場、取り組みが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご本人、ご家族様に説明を行いながら疑問・不安な点を尋ねて理解・納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会・電話があった際には現在の様子を報告しその際、ご家族様の意見・要望を伺い反映できるように努めている。	利用料の支払い時や、電話・面会のある家族に、意見・要望を聞き運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議や、申し送り、休憩時間の会話など提案・意見を聞く機会を設け反映できるよう努めている。	管理者は、職員会議や申し送り等、意見を聞く機会を設け、日常的に意見を表しやすい関係づくりに努めている。勤務体制の見直しやスリッパ等の購入など、職員の意見・提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が心身に負担なく働いていくことが出来るように配慮し対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や勉強会に参加できるようにしスキルアップに繋げている。また職員同士ケアについての話をし互いがスキルアップできるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度グループ全体での定例会議にて交流を図り、情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、在宅、施設へ訪問し、ご本人の思いを伺い安心してサービスを利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の困っていること、要望、不安を伺い安心して利用していただけるよう信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様にグループホームの特徴を説明し必要とするサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で出来ることはしていただき、出来ないことは無理なく職員とともに行うことで支えあう関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会の際には、日々の生活状況を伝え、ともに支えていけるような関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の関係が途切れないよう支援しまた継続できるように努めている。	お墓参りや以前住んでいた場所への外出、友達の面会など、利用前からの関係が継続できるように努めている。なじみの理容室に通い続けている利用者もいるなど、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しやり取りに気を配り、時には職員が間に入り良い関係が保てるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族との関係を大切にし気軽に相談できるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動からニーズの把握に努め、職員会議、申し送りなどで検討し希望に添えるように努めている。	本人との会話から思いや意向を把握している。言葉による意思表示が難しい利用者については、日々の行動をよく観察し、行動や表情から把握したり、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント資料やご家族様、ご本人からの情報や会話から生活歴の把握をしその人に合った場の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当職員を配置し現状の把握、心身の状態把握に努め気づきがあった際には申し送りや、連絡ノートを活用し情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、本人、必要な関係者との話し合い、意見アイディアをもとに現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、関係者と話し合い、家族の意見・要望等も反映して、介護計画を作成している。モニタリングは6ヵ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子がわかるような具体的な記録がされるように取り組んでいる。変化・気づきがある際には申し送り、連絡ノートを活用し情報共有を行い介護計画の見直し活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に配慮し、その時のニーズにフレシキブルな対応、サービスが行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や思いに沿った外出などで暮らしを楽しむことができるように努めている。地域ボランティアを活用しかかわりが増やせて行けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の希望がある場合はかかりつけの医療機関に受診していただいている。特にない場合は協力医であるきねぶちクリニックにて支援している。	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。家族が付き添う際には、口頭やメモで本人の状態を伝え、情報を共有している。月１回協力医の訪問診療を受けることもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携をし対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療との情報交換を行うように努めている。又、面会時や電話などでも情報交換・相談を行い退院後のケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の利用者の家族に対して早い段階から本人・家族と話し合いを行い、出来ること出来ない事を十分に説明し納得してもらい家族・医療等関係者とチームで支援している。	医師、訪問看護師等との連携や、家族の協力を得ながら、看取りに取り組む構えがある。急変時に対応できるよう協力医との24時間の連絡体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全体で年１回、消防署指導による救命救急の講習がありスキルアップを図っている。		
35	(13)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合避難訓練を実施し内1回は防災会社消防署指導にて実施している。日中・夜間帯の想定を交互に行っている。	防災会社・消防署と連携した避難訓練や夜間想定の訓練を実施しており、職員緊急連絡網の整備、水消火器の全職員体験、備蓄の整備等、日頃から防災意識を持っている。避難場所は家族に書面で知らせている。	運営推進会議等を活用し、自治会長を通して、近隣住民の避難訓練への参加呼びかけ及び、自主避難訓練の実施等、さらなる取り組みに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様の気持ちに添った言葉かけをするように心がけている。事業所全体の接遇研修を行い学んだことを実践している。個人情報の記載された書類は事務所内に保管している。	目上の人として敬意を持った言葉づかいをしつつも、かしこまりすぎないよう心掛けている。居室に入る際のノックや、排泄介助時のさりげない声かけ等、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けに注意し、本人の希望・要望が表出しやすい関係づくりを意識し思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の考えに立ち、職員は各行事やレクリエーション等の参加の言葉かけを行うが、本人の希望を尊重し強制はしないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容室サービスを受けている。また地域の理髪店にも出向き支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握している。テーブルを拭いて頂いたり下膳の際には食器を重ねてもらったり、食器を拭いたりと一緒に作業する時間を作っている。	週に1、2回食材の買い出しに行き、冷蔵庫にあるもので家庭的な食事を提供している。お正月のおせち料理、七草がゆ、クリスマスのお寿司など、季節を感じられる行事食を取り入れたり、お皿ふきを手伝ってもらうなど、利用者の力を活かす工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を作成し食事量の把握や献立ノートを使用し偏りのない食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い必要に応じて一緒に行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個人の排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導や言葉かけを行い支援をしている。	排泄チェック表を活用し、リハビリパンツ・パット、夜間ポータブルトイレの使用等、利用者一人ひとりに合った方法で、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維を含む食事、軽体操や散歩等、身体を動かすことや外出等により、精神的リラックスを図るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいという意思を尊重している。週2～3回を基本とし、希望の際や失禁してしまった際は、出来るだけ入浴していただくよう配慮している。	1対1の介助により、週2～3回午後の入浴を基本としている。歌を歌ったり、ゆっくり湯船につかったり、くつろげる時間となるよう配慮し、入浴拒否のある利用者には次の日に別の職員が対応するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じた休息ができるよう支援している。また就寝時は個人のタイミングに合わせ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋や申し送りノートで情報を共有し、処方された薬を確認している。毎日確実に服薬できるよう、個々に合った支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に役割を持って生活できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は施設周辺の散策、1時間程度のドライブを行い馴染みのある場所や、地区に行き支援している。また、本人の希望に添えるよう努めている。	車で近くの蓮池に行ったり、散歩や花見等に出かけている。食材の買い物の際に利用者も一緒に行き好きなものを買ったり、理容室の帰りにラーメンを食べたり、日常的な外出支援を行っている。お墓参りや以前住んでいた場所の訪問など、本人の希望に添えるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様へ説明し了解を得てお小遣いをお預かりし、希望や必要に応じて使用できるよう対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、ご家族様の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、不快な想いのないよう環境整備に努め、季節に添った飾り物を利用者と共に作成、掲示し季節感・生活感のある居心地の良い場の提供に努めている。	共用空間は、整理整頓し、臭気がないよう清潔に保っている。毎食後、テーブル、イス、手すりなどを拭き掃除し、感染症予防に努めている。梅の花の飾り物やクリスマスツリーなど、季節を感じられる装飾を施し、居心地のよい空間になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が気軽に気軽に座れるソファーや多目的に使用できる畳にて思い思いに過ごせる場の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には備え付けのものもあるが、使い慣れたもの馴染みのある物、愛着のある物を持ってきていただき居心地よく過ごせていただけるよう努めている。	カーテン・ベッド・タンス等の備え付けのもの以外は、鏡・写真・人形など思い出の品を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせる居室となるよう配慮している。利用前にベッドで寝る習慣のなかった利用者については、本人・家族の了解のもと、ベッドとカーペットを併用して、その人らしく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所、個人の持ち物などが分かりやすいように明記するなどして、自立を促している。また安全に生活できるよう動線の確保、環境整備に努めている。		